

新型コロナウイルス

経済人に 聞く―東北

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛が広がり、宿泊業は深刻な打撃を受ける。宮城県内の宿泊事業者でつくる「みやぎおかみ会」の阿部憲子会長(57)＝南三陸ホテル観洋おかみ＝に現状を聞いた。

―現状の被害は。

「県ホテル旅館生活衛生同業組合が、宿泊キャンセル延べ9万人以上という調査結果をまとめた。実際の影響はもっと大きい。日帰りの歓送迎会はほぼなくな

被害の全体像把握を

みやぎおかみ会会長

阿部 憲子さん



「旅館の被害の大きさを
知ってほしい」と訴える
阿部さん

り、せっかく家族予約を頂いても勤務先から外出禁止の指示を受けて取りやめる例も出てきた」

「人の集まりや外出を制限すると、旅行のような娯楽は真っ先に停止する。観光は飲食、小売りなど幅広い業種が関係し、東日本大地震の被災地で雇用も創出

している。交流人口減少による地域経済への影響は計り知れない」

―行政に求めることは。

「国内客中心の東北でこんなにキャンセルが出る重荷が伝わっていない。何よりも被害の全体像を把握してほしい。私たちのような装置産業にとって負担

の大きい固定資産税の減免、移動を促す高速道無料化といった要望も考えている」

―旅館や業界として取り組んでいることは。

「おかみ会として、外出できない子どもたちが応募できる『お宿の思い出』でも作文絵画コンクールを26日に始める。観洋では地元経済を支えようと、南三陸町内で使える商品券を宿泊客に配り始めた。仲間と相談しながら、終息後を見据えてできることをやっていきたい」

― 随時掲載 ―